

19) 検査部

1. 基本理念

杏林大学病院の診療の基盤を支えるべく、安全・正確・迅速に臨床検査を行う。

2. 組織および構成員

平成20年度の検査部全体の組織構成は、2年間の安全管理室勤務を終えた副技師長が復帰、新たに1名が副技師長に就任、計5名での管理体制となった。退職者の補充として3名の新卒者を採用した。最先端医療への貢献を目指し遺伝子検査室を立ち上げた。

*検査部役職者

- 渡邊検査部長：総括責任者（輸血業務を含む）
- 江上技師長：検体部門管理運営（輸血業務を含む）
- 司茂技師長：生理部門管理運営 リスク管理
- 岡崎副技師長：感染情報業務検査部責任者 微生物検査管理
- 高城副技師長：検査情報部門管理責任者
- 大藤副技師長：外来迅速検査部門管理責任者

各部署の構成は下記のとおりである（平成20年4月現在）。

管理室：部長（医師）1、技師長2、副技師長1、検査助手1、事務員2（KR派遣）	
検査情報室：技師1（外来検査兼務）	管理系 計8名
検体検査系：医師1、副技師長2、係長技師2、主任技師5、技師26	計36名
生理検査系：医師1、係長技師2、主任技師5、技師15、検査助手1、事務員1（KR派遣）	（パート1） 計26名
外来検査室：技師長補佐1、係長技師1、主任技師5、技師5、	（パート2） 計14名
臨床系（ICU・TCC・手術室・臓器組織）：主任技師1	計1名
耳鼻科出向：技師1名	計1名
眼科出向：技師1名	計1名
検査部構成員合計	87名（パート3）

3. 臨床検査部理念

杏林大学病院の診療の基盤を支えるべく、安全・正確・迅速に臨床検査を行います。

従来からの検査部の目標・理念を周到し以下の基本方針の明確化を図った。

基本方針

- ① 患者様の安全確保
 - 生理検査や採血のために検査部にこられる患者様に安全に検査を受けていただける様、環境を整えると同時に、検査担当者は患者様の状況を適確に把握し安全面に配慮する様心がけます。
- ② 質の高い正確な業務の遂行
 - 信頼できる質の高い検査結果を提供できる様、十分な品質管理（精度管理）を実施します。そのための職員教育に組織的に取り組みます。

③ 迅速な対応

必要な検査を必要な時に提供できる様、また検査オーダーから報告までの時間を現状よりもさらに短縮できるよう努力します。

4. 特色と課題（臨床サービスの徹底）

① 外来採血業務に係わる取り組み

a 外来検査室の運営改善（採血トラブルの根絶を目指して）

この部署の採血に直接関わる神経損傷ならびにそれに類するトラブルは、ここ数年来のより安全な採血を目指した採血技術のトレーニングの徹底によりその発生頻度は年1回以下に抑えられている。また、重大な事故事例も発生していない。

本年度も前年と同様に採血技術の向上を目指した部内勉強会／トレーニングに加えて、患者急変時への対応訓練・ベッドならびに車椅子昇降等の患者対応訓練も継続して実施している。

b 採血待ち時間短縮へ向けて

前年度、待ち時間短縮の為の取り組みとして採血要員を8名に増加し、患者数の多い月曜日・水曜日に於いても、概ね20分以内の待ち時間で収まる事が多かったが、本年度も昨年度同様採血患者の自然増により、待ち時間が延長傾向にある。混雑時には特設の採血台を用意するなどの対処をしているが、更なる対応策を検討中である。

② 検査の信頼性確保

検査業務の精度保障については従来よりインシデントならびに事故報告の分析と改善を検査部精度管理委員会を中心に実施してきており、その効果は確実に上がっている。本年度も採血時の患者間違い等の検出を日々システムを介して実施しており、発見された患者間違い等については医療安全管理室を経由し臨床側にフィードバックしている。

③ 臨床支援の拡充

従来より検査部では、検査の実施と報告という基幹業務に止まらず、臨床サイドに対する臨床支援態勢をより積極的に整えてゆくことも検査部に期待されている重要事項であると考えている。これに関連して

1) 検査部夜間・日直検査体制の強化

輸血業務を含む広範囲な夜間・日直業務の体制強化をはかるため、一昨年、夜間3人体制を導入し、特に緊急時輸血への対応等3人体制の効果が現れてきている。

この夜勤3名体制の中に、従来オンコール体制となっていたTCC／ICUの脳波・ABR検査担当者を組み込む体制を構築したが、非常に有効に機能している。また、夜勤者1名が脳波・ABR検査に対応した場合に輸血検査・救急検査に支障を生じないように構築したサブオンコール体制も稼動中である。

2) 輸血検査関連

本年度もより安全な輸血に対する知識・技術を広く臨床に普及させるために輸血療法に関する啓蒙、教育活動の拡充などに取り組んできた。また、研修医／看護部の輸血に係る研修にも協力し、当院の安全な輸血のための基礎づくりにも貢献している。夜勤／日直者に対して実施している、夜勤直前確認実習も継続して実施しており夜間当直時における安全な輸血体制の強化も継続してきた。

3) 生理検査関連

外来で心電図検査を実施する患者にとって利便性の高い外来心電図検査は検査件数は昨年度と比較すると1～2割増加してきており、特に患者数が多い月曜、水曜は担当技師を2名に増強して対応しても待ち時間延長の傾向にある。

夜勤・日直体制の中で時間外のTCC／ICUの脳波・ABR検査を吸収して行う体制は順調に稼動している。6月より開始したPSG（ポリソムノグラフィ）も順調に稼動し順次担当技師の育成を図っている。

超音波検査部門（除・心エコー）に於いては、4月よりNEXUSが導入され、7月より完全フィルムレス化が図られた。

4) 院内感染対策への係わり

検査部微生物検査室は従来より院内感染防止のための情報発信の拠点であり、感染症発生状況の掌握、院内感染の防止という重要な任務を担ってきている。従来、担当副技師長がほぼ専任に近い形でICTへの支援活動を強力に押し進めてきたが、さらに微生物検査室所属の技師をICT活動に参加させてきた。

5) 遺伝子検査室立ち上げ

遺伝子検査の分野は将来の遺伝子治療や再生医療において重要であり、今後更にその重要性は増すと考えられる。主要項目は肺癌のEGFR遺伝子変異およびJAK2遺伝子変異の2項目である。検査開始当初は兼任技師2名でスタートしたが、受託件数の増加を踏まえ年度後半に専任技師1名を配属した。

5. 医療安全

定常的な各検査室ならびに部内リスクマネジメント委員会の活動により、年度全体としてインシデント発生率は低く抑えられた。

6. 業務改善

病院の経営状態の改善に協力する目的で、各種の取組みがなされた。

7. 検査実績の推移

平成16年～20年度の検査実績は表1に示すとおりである。

8. 年度目標と達成評価

年度目標は次の1)～5)の大項目を継続事業とし、これら年度目標のうち1)臨床サービスの向上では定常的な業務安全への取り組み体制により、年度全体として大きなインシデントの発生は抑制されており、ほぼ適切な臨床サービスの提供がなされていると思われる。

- 1) 臨床サービスの向上
- 2) 検査部運営の改善
- 3) 卒前、卒後教育
- 4) 研究活動
- 5) 地域医療への貢献

表1 平成20年度臨床検査件数（2004年～2008年）

検査室	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
生 化 学	2,277,048	2,226,413	1,935,046	2,043,472	2,124,963
免 疫 ・ 血 清	212,075	218,227	214,687	231,382	259,900
血 液	394,868	381,686	343,713	372,893	392,816
一 般	130,392	115,398	99,563	97,410	103,745
細 菌	76,037	32,103	35,315	37,128	23,838
救 急	1,027,422	1,147,233	1,144,797	1,219,108	1,410,096
呼 吸 器	13,855	15,069	15,004	16,142	16,320
循 環 器	31,136	34,215	35,428	32,651	34,461
脳 波	4,025	3,945	3,416	3,144	3,404
超 音 波	26,639	24,333	25,043	23,409	24,242
外 来 検 査 / 採 血	111,947	92,591	96,759	124,500	143,252
輸 血 検 査 : 計	31,353	26,651	37,106	31,475	32,962
抹 消 血 幹 細 胞 輸 血	12	8	13	13	13
院 内 検 査 総 計	4,419,546	4,317,870	3,986,006	4,232,727	4,603,645
外 注 検 査	162,143	157,258	149,839	135,219	161,652
総 検 査 件 数	4,581,689	4,475,128	4,135,845	4,367,946	4,738,355